

奈良県の地震

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

【奈良県地震概況】

【地震一口メモ】

南海トラフ地震臨時情報発表時にとるべき防災対応

「奈良県の地震」は、奈良地方気象台における地震調査の一環として県内の地震活動状況を的確に把握し、きめ細かい防災対策に資するため 1989 年 1 月より月 1 回発行しています。「奈良県の地震」は、上記の項目で構成し、適宜地震解説資料や用語解説等を掲載します。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体、及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

※この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

奈良地方気象台

2025 年 9 月

本誌の過去分は奈良地方気象台ホームページでご覧いただけます。

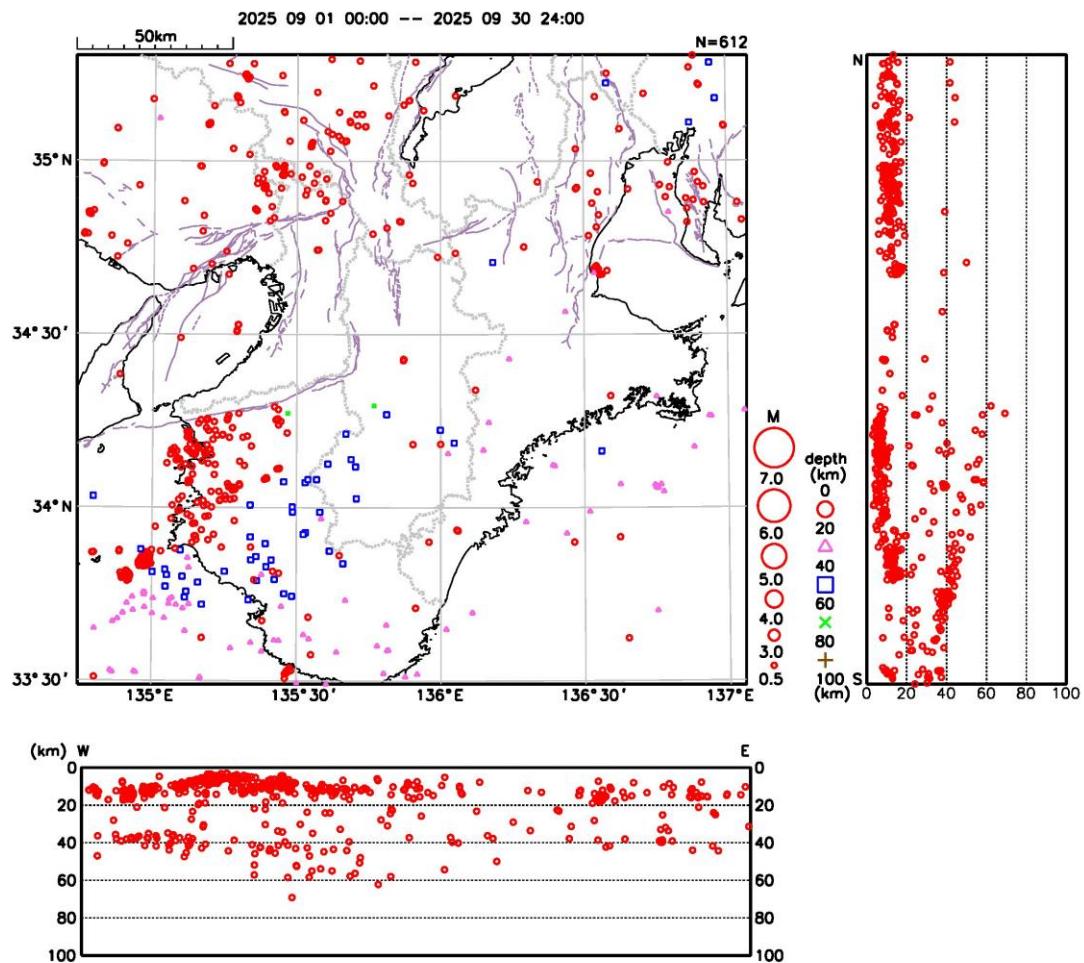
URL : <https://www.data.jma.go.jp/nara/jisin/jisin.html>



【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

震央分布図（左上）は、地震が発生した場所を地図上に表し、記号の大きさと地震の規模（マグニチュード、Mとも表記）と記号の種類で震源の深さを表しています。また、紫色の線は地震調査研究推進本部による主要活断層帯を表しています。南北方向の断面図（右上）と、東西方向の断面図（左下）で地震の垂直分布を表し、これらにより地震の発生状況と規模が把握しやすくなります。



【奈良県地震概況】

奈良県内で9月に震度1以上を観測した地震はありませんでした。

【地震一口メモ】

南海トラフ地震臨時情報発表時にとるべき防災対応

地震は突発的に発生することから、日頃から地震への備えを徹底しておくことが重要です（図1）。

南海トラフ地震臨時情報が発表されたら、政府や自治体の呼びかけに応じ、南海トラフ地震臨時情報のキーワード（巨大地震警戒、巨大地震注意または調査終了など）に応じた防災対応をとることが大切です（図2）。



※Yahoo!ニュース制作図解・商用利用不可・図解を分割編集しての使用はできません。

図1 日頃からの地震への備え

図2 南海トラフ地震臨時情報 発表後にとるべき行動

○「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）」発表後にとるべき防災対応

- ・初めの大規模地震が発生し、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）を発表した後、大規模地震が続けて発生した場合、津波からの避難が間に合わない可能性がある方は、初めの大規模地震の発生から1週間、自治体等からの指示により事前避難を行ってください。
- ・日頃からの地震への備えの再確認に加え、特別な備えとして、すぐに逃げられる態勢の維持や非常持出品の常時携帯などを行い、必要に応じ自主的に避難を行きましょう。
- ・1週間が経過した後、さらに1週間、「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」でとるべき対応を行います。

○「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」発表後にとるべき防災対応

- ・大規模地震の発生から1週間、日頃からの地震への備えの再確認に加え、特別な備えとして、すぐに逃げられる態勢の維持や非常持出品の常時携帯などを行い、必要に応じ、自主的に避難を行きましょう。
- ・地震が発生していなくても、南海トラフ地震の想定震源域のプレート境界で通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価した場合は、「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」の防災対応を呼びかけます。この場合、とるべき防災対応は同じです。対応をとる期間は、すべりの変化が収まってから変化していた期間と概ね同程度の期間が経過したときまでです。

○「南海トラフ地震臨時情報（調査終了）」発表後にとるべき防災対応

- ・地震の発生に注意しながら通常の生活を行いましょう。ただし、大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意が必要です。
- ・また、南海トラフ地震臨時情報が発表された際に慌てることがないように、日頃からの地震への備えを徹底しておきましょう。

○南海トラフ地震臨時情報の留意事項

- ・揺れに対するリスクは、それぞれの地域が置かれている状況によって異なり、とるべき対応方法が異なりますので、自分の身の回りのリスクに応じた態勢を準備してください。
- ・1週間という期間は、人々が対応を続けられる限度等を加味しているため、大規模地震の発生から1週間が経過した後も、地震の発生可能性は当初より低下しているものの、発生の可能性がなくなったわけではありませんので、引き続き巨大な地震に備えることが重要です。家具の固定や避難場所・避難経路の確認など、これまでに再確認した地震への備えを徹底し、日常生活を送ってください。
- ・南海トラフ地震の切迫性は平常時においても高い状態にあり、いつ地震が発生してもおかしくないことに留意が必要です。
- ・南海トラフ沿いで異常な現象が観測されず、本情報の発表がないまま、突発的に南海トラフ地震が発生することもあります。
- ・地震発生の可能性が相対的に高まったと評価した場合でも、南海トラフ地震が発生しないこともあります。
- ・大規模地震で発生する被害の甚大性を踏まえ、不確実ではあるものの、大規模地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まっていると評価された場合は、状況に応じこの情報を活用し、大規模地震に備えた行動を取ることで被害をできるだけ減らしていくという考え方が重要です。

南海トラフ地震臨時情報や、南海トラフ地震臨時情報が発表された場合の行動について、以下のホームページも事前にチェックしておいてください。

気象庁 HP 「「南海トラフ地震に関連する情報」について」

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jishin/nteq/info_criterion.html

内閣府 HP 「4. 南海トラフ地震臨時情報が発表されたら何をすればいいの？」

<https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/rinji/index4.html>